

佐井港～仏ヶ浦

奇岩怪岩景勝地探訪。

陸からの眺めとは全く違い、まるで異世界に迷いこんだような感覚に捉われる、佐井港から仏ヶ浦までの船旅をご案内致します。

がんかけ岩

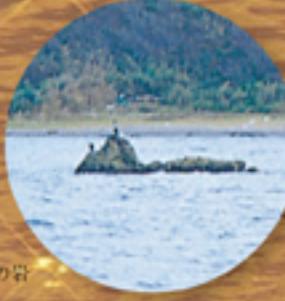
見方によっては、男女が抱き合っているような姿の大岩。地元では、古くからこの岩を愛媛岩とか恋掛岩と呼ばれる信仰の対象となっていました。

また、江戸時代の紀行家菅江真澄の文章にも見られ、自分が好きな人に想いが通じるように願を掛けている風習があることを伝えています。



壁面

全国の美術に携わる大学生が夏休みを利用して書いてくれます。「海」をテーマにそれぞれの思いを体中ペンキだけになって化上げていきます。



鶴ノ島岩

酒を呑んだ鳩の鳥がこの岩の上に乗ります。

風に向かって羽根を広げる様は羽根を乾かす鳥なのか、求愛のポーズなのか?とても滑稽に見えます。



仮ヶ浦

風情廻しの津軽海峡の荒波が削り上げた大自然の造形、仮ヶ浦は冬の厳しい冬と夏の穂やかな春の両方を持っています。

2kmに及ぶ奇岩の連なりは、見るものの心にさまざまな造形を紹んでくれます。



大町桂月歌碑

上佐の歌人、大町桂月は仮ヶ浦の奇岩の連なりと神秘的な美しさに惚れ、この歌を歌いました。
「神のねぎ草の手づかり仮宇陀入の
雲ならぬ此なりけり」



◆蓬莱山と黒雲山



五百羅漢

身み汚れた衣を着た修行僧が海岸に立ち並び瞑想に耽る様子。



屏風岩

すぐ脇にある地蔵堂を強い風から守る為に隆起したとも言われる。

如来の首

仮ヶ浦のほぼ中央で如来像が海を向き、浜に上がる人達を優しい顔で出迎えているように見える。



一ツ山

一つ私の手前、蓬莱山と黒雲山の間に不老長寿の水が流れる極楽浜があります。

源九郎義経と齊慶が落ちたびて来たとき、義経は極楽浜の中へかくれ、齊慶が身をもって穴をふさぎ敵を追い払った。

その時の薙刀で斬った跡が一つ仮の鎧めの跡現たといいう伝説も残されております。

佐井港

江戸時代、盛岡藩の新定港であった下北半島の各港は田名部通り七港と総称されていました。

その中には佐井港もありヒバ材や海産物を積み出す舟運船とその乗組員、商人たちの往来で賑わい、大いに栄えました。

アルサス

観光船の発着場所であり、観光物産と歴史を紹介しています。

観光案内所や博物館、3階には津軽海峡と北海道を望める展望室があります。

佐井

佐井村

あすなろライン

かもしかライン

国道338号線